

平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人京都教育大学

1 全体評価

京都教育大学は、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養うとともに、教育専門職に必要な資質、能力を有する人材の養成を行うことを使命としている。第2期中期目標期間においては、現代的教育課題に対応できる資質能力を備えた実践的指導力を有する教員の養成に努めること等为目标としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「6年制教員養成高度化コース」の大学院段階におけるカリキュラムを構築したほか、初任期教員に対する支援を充実させるため「京のせんせい知恵袋」を新設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、大阪教育大学及び奈良教育大学との連携により、教養教育等大学教育の充実を図ることを目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、各大学の教員養成高度化連携拠点を中核として教員養成・研修高度化事業に引き続き取り組み、双方向遠隔授業については、教養教育科目等25科目を開講し、延べ2,933名（対前年度比322名増）が受講するとともに、双方向遠隔授業システムを活用した三大学合同のFDやSDを実施するなど、教職員の資質向上を図ったほか、「京阪奈三教育大学連携推進フォーラム」を開催し、連携の意義や成果に関する報告を行っている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

教育委員会や学校現場に関する意見交換を目的として、京都府や京都市の教育委員会、公立の小・中・高等学校、及び大学とで組織する「京都教育大学連携協議会」を3回にわたって開催し、学校現場における現代的課題に対応できる教員養成やリージョナルセンターとしての研修の高度化推進等について検討を行ったほか、学校現場での指導経験がない大学教員に対して研修を実施する「新任教員研修」を実施している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 機動的な大学運営を実現する2つの組織の設置

大学のビジョン・戦略をより機動的に検討するため、新たに、「拡大役員会」を設置し、大学の年度計画実施の進行状況やその時点での課題を毎月細かく把握するとともに、「京都教育大学企画戦略会議」を設置し、第3期中期目標期間における大学のビジョンを実現するための戦略や取組等について検討している。

○ 教育委員会等との連携を通じた大学運営の仕組みの構築

「地域に密接して、とりわけ義務教育に関する教員養成機能の中心的役割を担う」というミッションを達成するため、京都府・市教育委員会各教育次長や京都府・市立の小・中・高各学校長、及び関係者からなる「京都教育大学連携協議会」を新たに設置しており、「現代的な教育課題に対応できる質の高い能力を持った教員の養成」等、第3期中期目標期間における戦略や取り組むべき課題についての検討を行っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域企業との共同事業の実施による大学認知度の向上

地域の企業や地域社会との連携強化等を目的として、百貨店と連携して実施した「食育推進プロジェクト」の一環として、家庭領域専攻の学生が百貨店と共同で商品開発に取り組むとともに、商品が販売されている。この取組により、学生に対して実践的な商品開発や献立作成能力の育成が図られるとともに、新聞やラジオなど各種メディアに取り上げられるなど、大学の認知度の向上が図られている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 「6年制教員養成高度化コース」の大学院段階におけるカリキュラムの構築

「6年制教員養成高度化コース」については、平成28年度より大学院における教育が開始されることから、必修として履修する「教職実践研究」の開講に向け、シラバスを作成するとともに、実践的な指導力と研究遂行力を育成するため、「教員インターン実習Ⅰ」と「教職実践研究」を組み合わせることにより、学校における活動と大学での省察の往還を可能とするなど、研究遂行力を養成するカリキュラムを構築している。

○ 附属学校園と連携したプロジェクト研究の推進

プロジェクト研究『「グローバル人材育成プログラム」の開発ー幼稚園から大学までの系統的カリキュラムの策定を目指してー』では、これまでに実施した国内外のカリキュラム調査等の結果を踏まえ、「(出会う→広がる→つながる)×重ねる」というカリキュラムの枠組を提案するとともに、幼小中高大の各段階で目指すグローバル人材・教員像を明らかにしている。これらを踏まえ、附属学校園ではグローバル教育の視点を生かした授業開発や、30を超える授業実践・研究発表を行うとともに、「京都教育大学フォーラム2015」において研究成果を発信している。

○ 初任期の教員に対する支援の充実

初任期教員が実践する中で悩みがちな課題や、日常の実践のニーズに応えるコーナーとして「京のせんせい知恵袋」を新設し、ウェブサイト上に「掃除の指導について」「給食の指導について」「休み時間の指導について」等のページを設けており、これまでに構築した「京のせんせいポートフォリオ」と併せて、初任期教員の自己研修に対する支援を充実させている。

○ 教員就職状況

平成27年3月卒業者（教員養成課程）の教員就職状況は卒業者300名に対し、正規採用が104名、臨時的任用が66名で、平成27年教員就職率は56.7%、進学者等を除くと64.9%となっている。